

電磁応用

第61号 2002年4月

就任ご挨拶

理事長 富永英義

電磁応用研究所にはしばらくご無沙汰していましたが、昨年7月に川原田理事長が入院しているとの報を受け、お見舞いに伺いますと突然理事長から専務理事の就任の要請を受け、大変戸惑いました。しかし長年のご恩に報いるため、理事長代理としての役目をお引き受けしました。その後、あまりにも急に理事長が逝去され、諸々のことが目まぐるしく過ぎてまいりました。故理事長の長年の親友である評議員の島崎弘様が、故理事長の遺言として後任の理事長の推薦を託されたとの理由で、理事会の席上私に理事長就任の要請をされ、評議員全員の強い推挙となり、再び大きな戸惑いを覚えましたが、お引き受けせざるを得ないと、自覚しました。

生半可なことでこの伝統ある研究所の理事長の責務を全う出来るとは思えませんが、関係の皆様のご支援を頂くことで最善の努力をすることにいたします。

昨今の経済環境は過去に経験したことのない悪い状況にあり、外国債券にしてある当財団の基金は、大幅な評価損を受け、財団としての運用資金は、極めて切迫した状況にあります。この1年間は研究所の財務状況を精査し、社会情勢の変化を冷静に判断し、今後の研究所のあり方の基本方針を立てなければなりません。財団の基金をいかにして有効にするかが大きな課題ですが、出来得れば創立者川原田政太郎先生の初志を受け継ぎ、先生の業績を後世に伝えるべく、資料の数々を調べ展示が出来る環境を整備しながら、若い研究者の参画により、活気ある研究の場を実現したいと願っています。

平成13年度第3回 理事・評議員会

- ・日時 平成14年3月20日 17時～18時 評議員会
18時～19時 理事会

- ・場所 電磁応用研究所 会議室
・審議事項

1. 次期役員・評議員の選任 (全員留任)
2. 平成13年度収支決算(予測)
3. 平成14年度事業計画案
4. 平成14年度予算案

議長から来年度の方針として

1. 研究の充実、特に公的機関の研究助成に積極的に提案し、その実施のための研究員の充実を図る。
2. 初代理事長 川原田政太郎氏の研究業績を偲ぶ資料が徐々に散逸しているのに鑑み、これの整理保存を図る。
3. 研究環境をさらに改善するための調査検討を行なう。
等の案が示された。

以上の審議を行い、満場異議なく了承された。

平成13年度 研究成果

理事 富永英義

1. MPEG-2 Multi-Program Transport Stream Transcoder
Takeshi Takahashi, Hiroyuki Kasai, Tuyoshi Hanamura, Maki Sugiura, Hideyoshi Tominaga
IEEE2000, International Conference on Image Processing, ICME2001 Vol. MP11.09, Aug. 2001
2. MPEG-2 ビットストリーム分離・合成機能によるスケーラブル映像符号化方式
永吉功、花村剛、笠井裕之、富永英義
電子情報通信学会論文誌 D-11. Vol. 184-D-11, No. 12, 2001年12月
3. 削減符号量による歪み増加特性を考慮したMPEG-2 ビデオトランスコーダ再量子化符号量制御方式に関する基礎検討
永吉功、笠井裕之、花村剛、亀山渉、富永英義
映像情報メディア学会誌、Vol. 55, No. 12, 2001年12月
4. マルチプログラムトランスポートストリームトランスコーダにおける出力パケット再多重方式
高橋健志、花村剛、笠井裕之、永吉功、富永英義

第145回電気通信技術懇談会 (13.11.14.)

・・・最近の携帯電話、IT関連技術の動向について・・・

標記に関して最近の3件の事例について、桑原守二氏から説明があり、熱心な質疑、討論が行われた。

- (1) 第三世代携帯電話方式の標準化
- (2) シーテックジャパン2001
- (3) MVNO (移動仮想ネットワークオペレータ)

第146回通信技術懇談会 (13.12.7)

—モバイルマルチメディアの動向—

NTTドコモ衛星ビジネス部長坪井了氏から、表題に関する講話を伺い、討議を行なった。

携帯電話は95年頃から急速な伸びを示し、特に99年にiモードサービスを開始してからは、著しく増加した。

携帯電話の世界も音声から非音声への展開が進んでいる(マルチメディア化)。特にインターネット利用が増大しているが、この関連市場はコンテンツ事業の成長・拡大が著しく、02年度に51.2兆円と見込まれている。携帯電話は携帯するパソコンになりつつある。

また、デジタル放送の本格化に伴いデジタル放送との融合が行なわれ、携帯電話でTV放送を受信することも可能となる。これは全く新しいモバイルマルチメディアの誕生である。

第147回電気通信技術懇談会 (14.1.18)

—最近の話題をめぐって—

桑原守二氏(現・桑原情報研究所代表)からは、おりおり同じテーマでお話を伺ってきたが、新年にあたり電気通信の各分野の話題を総合的に紹介して頂く。

内容は(1)通信事業者(2)電気通信(3)インターネット(4)中国(5)放送(6)産業界の各分野にわたる夫々の話題である。

何れの分野も技術の進展、世界的不況、テロの不安の影響で流動的であり、話題は豊富であるが変化の大きなうねりの中に漂っているような印象である。

第148回電気通信技術懇談会 (14.2.15)

—放送の音響効果—

NHK に永年居られて放送の音響効果を開発し、作りあげた大和定次氏から、お話を伺った。

放送における音の三要素は音声・音楽・効果音であること、聴覚には受け取り方によって様々な特殊性のあること、番組に相応しい音響の構成。音響の加工。等々、音響効果の学も披露して頂いたが、やはりこの道50年の蘊蓄を実演で紹介されたことが、印象的だった。

第149回電気通信技術懇談会 (14.3.28)

—通信業界の最近の話題—

今月も桑原守二氏にお願いし、最近の話題について提起して貰い討議を行なった。

- 1) 国内半導体メーカー11社の共同出資生産会社
- 2) ベル研究所の凋落
- 3) NTTのジュネーブ事務所の閉鎖
- 4) 110度CS放送の仕組み
- 5) IP電話の登場

などが話題となり、変化の多い時代を象徴するテーマで大変有益であった。

、電磁応用 第61号

平成14年4月30日

編集発行人 富永 英義

発行所 (財)電磁応用研究所

〒107-0062 東京都港区南青山5-1-10-808

TEL. (03)3499-1888

FAX. (03)3499-1989